

---

## ACMS シリーズの最上位モデル、 エンタープライズ・データ連携基盤「ACMS Apex」を中心に販売を強化 ～固定電話網の IP 化を背景に、インターネット EDI への移行を促進～

---

株式会社データ・アプリケーション（本社：東京都中央区、代表取締役社長：武田 好修、略称：DAL、JASDAQ：3848）は、2017年4月6日 東日本電信電話株式会社・西日本電信電話株式会社（以下、NTT 東西）から「固定電話網の IP 網移行後のサービス及び移行スケジュールについて」の発表（注1）と、2017年9月27日総務省からの「固定電話網の円滑な移行の在り方について」の二次答申（注2）を受け、JCA 手順や全銀協標準通信プロトコルを用いた従来型 EDI からインターネット EDI への移行を促進、そのソリューションとして ACMS シリーズの最上位モデルであるエンタープライズ・データ連携基盤「ACMS Apex」を核に、ACMS シリーズの販売を強化します。

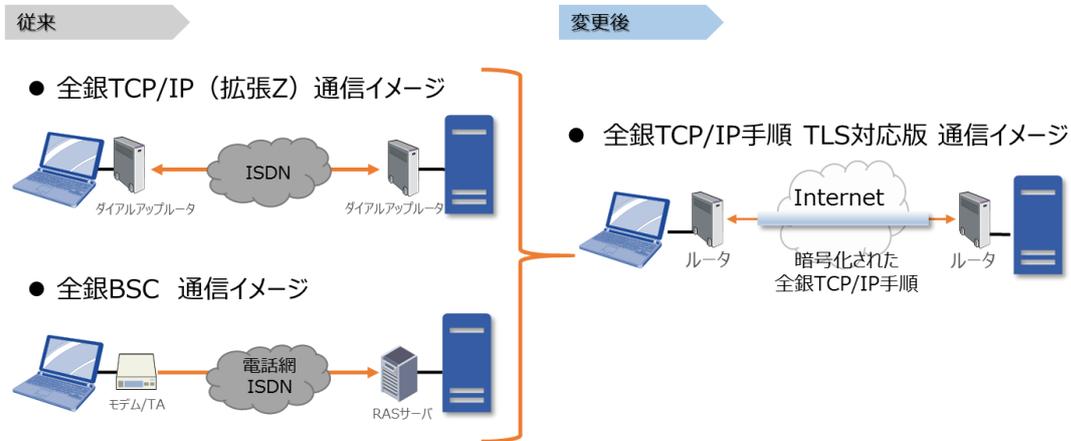
固定電話網から IP 網への移行は、2024年1月に開始し2025年1月までには完了が予定されており、また INS ネット（ISDN）デジタル通信モードも2024年1月に終了が予定されています。これに伴い NTT 東西よりメタル IP 電話や補策、代替案の施策が提示されています。しかし、これらの施策には、データ伝送遅延などの課題もあることから、固定電話網を介し JCA 手順、全銀協標準通信プロトコル（ベーシック手順・TCP/IP 手順）を用いた従来型 EDI は、2024年1月以降利用に支障をきたす可能性があり、また INS ネットデジタル通信モード利用の場合には使えなくなります。これにより、企業は新たな手段としてインターネット EDI への移行を余儀なくされます。

そこで、弊社では、既存製品 ACMS E<sup>2</sup>X・ACMS B2B バージョン3と4を利用し保守契約締結のお客様を対象に、同一モデル相当の「ACMS Apex」を半額で提供するキャンペーンを2018年3月末まで実施します。ACMS B2B をご利用のお客様の場合は、ACMS E<sup>2</sup>X に一旦アップグレードしていただくことで、当キャンペーンを適用いただくことが可能です（別途ライセンス費用の差額が発生します）。これを機に「ACMS Apex」にバージョンアップいただくことで、より安全で高度なインターネット EDI 環境の早期構築を可能にします。

また、2017年5月に発表された全銀協標準通信プロトコル（TCP/IP 手順・広域 IP 網）をもとにして開発した、インターネット対応（暗号化方式として TLS を利用）の全銀協標準通信プロトコル（TCP/IP 手順）を ACMS シリーズ 全6製品でサポートしました。これにより、全銀協標準通信プロトコルの仕様はそのままに、データ暗号化やサーバ/クライアント認証対応を既存アプリケーションの改修を最小限にとどめ、スムーズかつセキュアにインターネット EDI への移行を実現します。

一方、従来の ACMS シリーズは企業の自社導入型の利用だけでなく、多くの EDI サービス（VAN など）事業者でも導入されています。「ACMS Apex」は、従来の ACMS シリーズにはなかったテナント管理やデータ暗号化、高可用性、拡張性機能などが加わり、EDI サービスやインターネット EDI の運用に最適な環境構築を可能にします。また、ACMS Apex を導入しているサービス事業者には、「POWERED BY ACMS Apex」ロゴを付与し、ユーザ企業が EDI サービスを選択する際の品質基準になることを目指します。

## 【インターネット対応の全銀協標準通信プロトコルへの移行イメージ】



【サービス事業者に付与する POWERED BY ACMS Apex ロゴ】



ACMS シリーズは、グローバルで利用されている EDIINT AS2、OFTP2、ebXML MS (2.0、3.0)、SFTP、更には流通 BMS の JX 手順など、インターネット EDI の 5 大プロトコルにすべてに対応しています。また、それぞれのプロトコルで、標準化団体や認定機関、ソフトウェアベンダ間の相互運用性試験を実施しており、安心して導入いただけます。インターネット EDI は、一般的にデータフォーマットに XML 形式を利用しますが、DAL が提供するデータ変換機能で社内のシステムにあったフォーマットに変換し、データの取り扱いを容易にします。さらに、Web-EDI やメール EDI などもサポートし、さまざまな形態の EDI を統合運用することができ、分散配置や拡張性も高く、耐障害性に優れた可用性の高い EDI システムの構築を可能にします。

DAL は、企業のインターネット EDI への移行の加速を背景に、販売を強化・推進することで、企業のインターネット EDI へ移行を支援し、今年度「ACMS Apex」の売上 1 億 5 千万円を目指します。

以上

(注 1) [https://www.ntt-east.co.jp/release/detail/20170406\\_01.html](https://www.ntt-east.co.jp/release/detail/20170406_01.html) (NTT 東日本)

<http://www.ntt-west.co.jp/news/1704/170406a.html> (NTT 西日本)

(注 2) [http://www.soumu.go.jp/menu\\_news/s-news/01kiban02\\_02000230.html](http://www.soumu.go.jp/menu_news/s-news/01kiban02_02000230.html)

### 【ACMS Apex について】

- ・ Web ページ : <http://www.dal.co.jp/products/di/apex/outline.html>
- ・ 販売経路 : DAL のビジネス・パートナー72 社 (<http://www.dal.co.jp/partner>) を通じて販売
- ・ 販売価格 : 60 万円～ (基本機能)

### 【株式会社データ・アプリケーション (DAL) について】

DAL は、1992 年に最初の UNIX 向けの製品をリリースして以来、EDI (電子データ交換) を中心にシステム連携分野において信頼性の高いパッケージソフトウェアを自社開発し、国産ソフトウェアベンダとして EDI パッケージ市場でリーダーシップを確立。2007 年 4 月にジャスダックに上場しました (JASDAQ : 3848)。

DAL の「ACMS (Advanced Communication Management System) シリーズ」は、国内 72 社のビジネス・パートナーを経由して販売され、すでに 2100 社 10000 サイトを越える企業のミッションクリティカルなシステムで稼働しています。ACMS シリーズは、エンタープライズ・データ連携基盤「ACMS Apex」をはじめ、基幹システムと連携した B2B 環境を容易に構築できる B2B サーバ「ACMS B2B」、企業内外のデータ連携を行う B2B インテグレーション・サーバ「ACMS E<sup>2</sup>X」など、システム規模・接続ニーズに応じた製品ラインアップを揃えています。また、システム連携では不可欠なデータのフォーマットや文字コードの変換・加工を行うデータハンドリングプラットフォーム「RACCOON」を 2014 年 3 月から提供しています。

【HP】 <http://www.dal.co.jp/>

【Facebook】 <https://www.facebook.com/DataApplications/>

【Twitter】 [https://twitter.com/dal\\_acms](https://twitter.com/dal_acms)

### 【本件についてのお問い合わせ先】

報道関係	お客様
マーケティング本部	営業本部
Tel : 03-5640-1437	Tel : 03-5640-8544
Fax : 03-5640-8541	Fax : 03-5640-8541
E-Mail : <a href="mailto:pr@dal.co.jp">pr@dal.co.jp</a>	E-Mail : <a href="mailto:sales@dal.co.jp">sales@dal.co.jp</a>

※DAL, ACMS, AnyTran, E<sup>2</sup>X, WebFramer, RACCOON は、株式会社データ・アプリケーションの日本および海外での商標ならびに登録商標です。

※本文中に記載されている会社名、製品名等は、各社の登録商標または商標です。